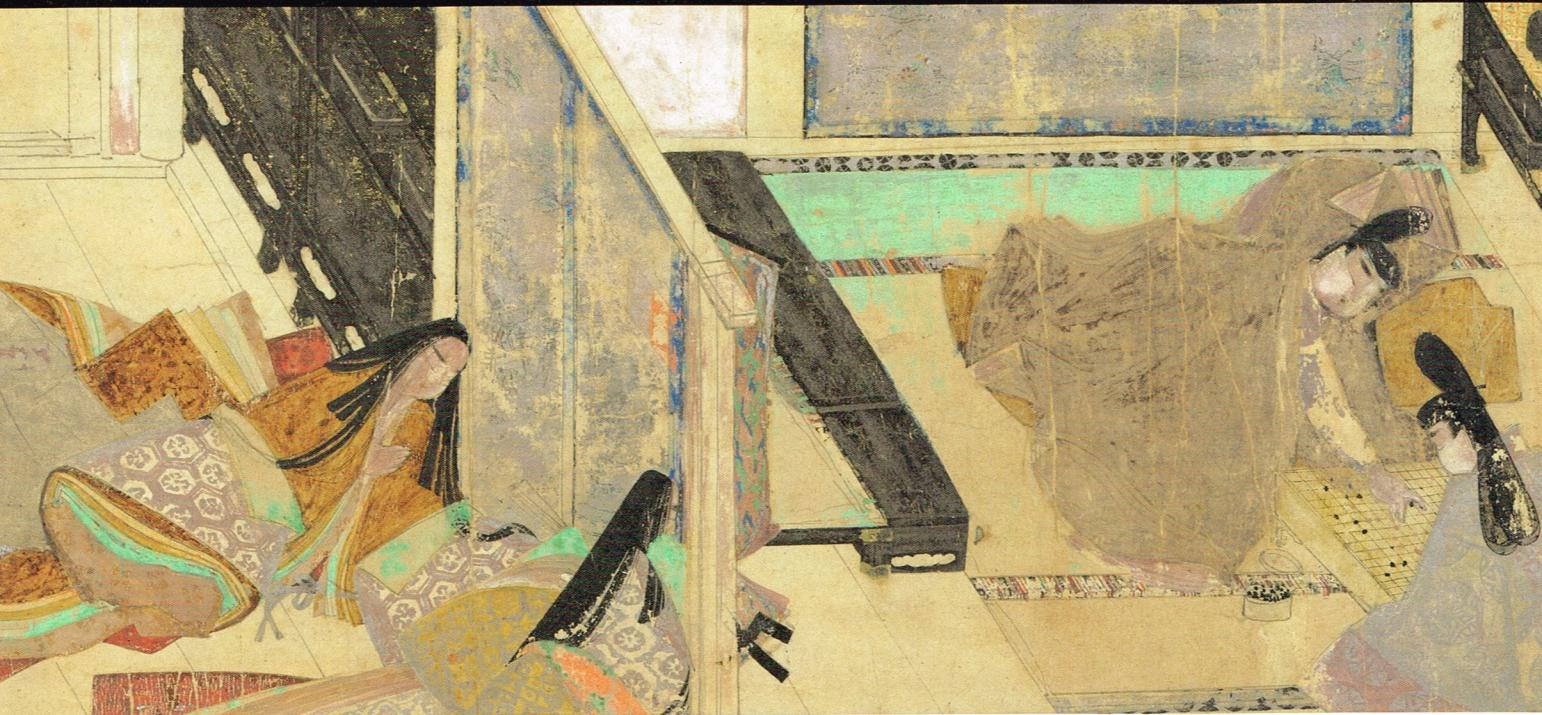


# Magnificent Maki-e: Tales of Urushi and Gold over a Thousand Years



MOA美術館開館40周年記念特別展

## だい まき え 大 蒔 絵 展 うるし 漆と金の千年物語



国宝16点・重要文化財32点を展览

2022年4月1日|金|-5月8日|日|  
MOA美術館

※会期中展示替えあり

開館時間：午前9時30分 - 午後4時30分(入館は午後4時迄) 休館日：木曜日(但し、5月5日は開館)

観覧料：一般1,600(1,300)円/高大生1,000(700)円・要学生証/中学生以下無料/65才以上1,400円・要身分証明

※()内は10名以上の団体料金 ※障がい者手帳をお持ちの方と付き添い者(1名のみ)半額

※前売り券は、ホームページのオンラインチケット、お近くのコンビニエンスストア(セブンイレブン、ローソン、ファミリーマート)でもお求めいただけます

主催：MOA美術館、三井記念美術館、徳川美術館、朝日新聞社 後援：國華社、漆工史学会、日本工芸会 協力：あいおいニッセイ同和損保

[3館共同開催] 三井記念美術館：2022年10月1日(土)～11月13日(日)/徳川美術館：2023年春 ※出品作品は会場ごとに異なります

(上段)国宝 源氏物語絵巻 宿木一(部分) 平安時代(12世紀) 徳川美術館  
(中段左より)国宝 海賦蒔絵表装箱 平安時代(10世紀) 教王護国寺 Image: TNM Image Archives  
国宝 澤千鳥蒔絵螺鈿小唐櫃 平安時代(12世紀) 高野山金剛峯寺 画像提供:高野山靈宝館  
国宝 梅蒔絵手箱 鎌倉時代(13世紀) 三鷗大社 Image: TNM Image Archives  
重文 男山蒔絵硯箱 室町時代(15世紀) 東京国立博物館 Image: TNM Image Archives  
(下段左より)重文 秋草蒔絵歌書箪笥 桃山時代(16世紀) 高台寺  
国宝 初音蒔絵貝桶 靈仙院千代姫(尾張徳川家2代光友正室)所用 江戸時代(17世紀) 徳川美術館  
重文 住之江蒔絵硯箱 江戸時代(18世紀) 尾形光琳 静嘉堂文庫美術館  
画像提供:静嘉堂文庫美術館 / DNPartcom  
蒔絵螺鈿丸菴「秋奏」室瀬和美 平成29年(2017) ポーラ伝統文化振興財団

MOA美術館

熱海市桃山町26-2  
TEL: 0557-84-2511  
<https://www.moaart.or.jp>

漆で絵を描き、金粉や銀粉を蒔きつけて文様をあらわす「蒔絵」は、日本文化において長きにわたり理想美の象徴であり続けています。本展覧会はMOA美術館、三井記念美術館、徳川美術館の3館が共同で開催するもので、平安時代から現代の漆芸家作品にいたるまで、3会場で国宝26点、重文52点の名品を通して蒔絵の全貌に迫ります。MOA美術館では、国宝16点、重文32点を展覧し、国宝「初音蒔絵調度」(徳川美術館蔵)をはじめ、平安時代の和様意匠の完成を示す国宝「澤千鳥螺鈿蒔絵小唐櫃」(高野山金剛峯寺蔵)、鎌倉時代の手箱、琳派様式の蒔絵といった各時代を代表する名品に、現代の人間国宝を加えた選りすぐりの蒔絵をご紹介します。さらに国宝「源氏物語絵巻」(徳川美術館蔵)をはじめとした物語絵巻や屏風、仏教経典や書跡なども展覧し、日本人が追求した美の系譜をたどります。

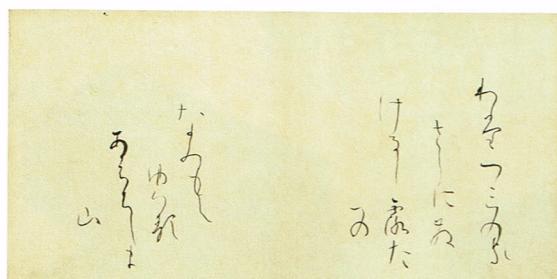
前期展示: 4月1日(金)~4月20日(水)、後期展示: 4月22日(金)~5月8日(日)



国宝 源氏物語絵巻 柏木一(絵) 平安時代(12世紀) 徳川美術館 ※展示期間4月1日~4月8日



石山切 平安時代(12世紀)  
藤原定信 MOA美術館  
※後期展示



重文 繼色紙 伝 小野道風 平安時代(10~11世紀) MOA美術館  
※後期展示

## 第1章 源氏物語絵巻と王朝の美

平安時代、宮廷を中心とした貴族文化が爛熟して純日本的な美の規範が生まれました。国宝「源氏物語絵巻」は紫式部の『源氏物語』を絵画化した作品で、貴族の私的生活の場に設置された調度類の具体的な様相を伝えています。また、小野道風、藤原佐理、藤原行成ら三蹟の時代に和様の書が完成し、豪華な金銀の素材を用いた料紙装飾によって美麗な冊子や巻物が制作されました。本章では、国宝「源氏物語絵巻」を中心に、王朝の美を示す絵巻や書の優品をご覧いただきます。

国宝 澤千鳥螺鈿蒔絵小唐櫃  
平安時代(12世紀) 高野山金剛峯寺  
画像提供:高野山靈宝館  
※後期展示



国宝 海賦蒔絵表裏箱  
平安時代(10世紀) 教王護國寺  
画像提供:東京国立博物館  
Image: TNM Image Archives  
※後期展示



## 第2章 神々と仮の莊嚴

贅のかぎりを尽くした蒔絵の調度の中には、神社の創建や造替、その他特別な祈願の際に奉納され、御神宝として伝わったものがあります。また、仏教では、貴重な經典を納める経箱や仏具類を納める箱等が蒔絵によって飾り立てられました。本章では、神社や仏閣に受け継がれる蒔絵作品の数々をご紹介します。

## 第3章 鎌倉の手箱



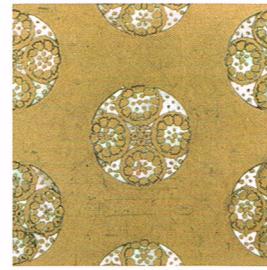
国宝 浮線螺鈿蒔絵手箱  
鎌倉時代(13世紀) サントリー美術館  
※前期展示



国宝 梅蒔絵手箱  
鎌倉時代(13世紀) 三崎大社  
画像提供: 東京国立博物館  
Image: TNM Image Archives  
※後期展示



重文 長生殿蒔絵手箱  
鎌倉時代(14世紀) 徳川美術館  
※前期展示

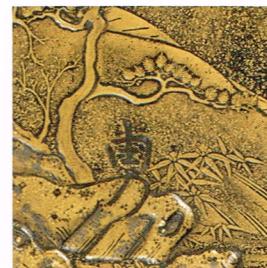


鎌倉時代は、研出蒔絵、平蒔絵に加えて写実的描写を可能とする高蒔絵が完成し、丸粉の考案によって力強い輝きを放つ金地(金沃懸地)が生まれるなど、多彩な表現が花開きました。また、大型で内容品が付属する手箱の名品が数多く遺されていることも特徴の一つです。本章では鎌倉の手箱の代表作として名高い国宝「梅蒔絵手箱」などを展観し、鎌倉時代の蒔絵の様々な表現をご紹介します。

重文 男山蒔絵硯箱 室町時代(15世紀)  
東京国立博物館  
Image: TNM Image Archives  
※後期展示



重文 研蒔絵硯箱  
室町時代(16世紀) 東京国立博物館  
Image: TNM Image Archives  
※前期展示

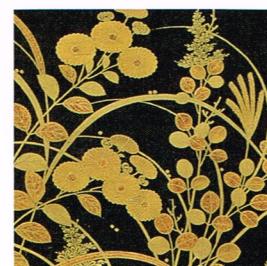


## 第4章 東山文化 — 蒔絵と 文学意匠

室町時代は、御伽草子や、能、狂言といった文学が庶民に広がり、それとともに文学意匠も盛んに用いられるようになりました。この頃の蒔絵技術は、前代の技法を継承しながら、技法の組み合わせによって新しく高度な技法を生み出しました。ここでは、高度な蒔絵技術を駆使して冷え枯れた風景を描く重文「男山蒔絵硯箱」など、文学意匠と関係する東山時代の蒔絵をご紹介します。



重文 秋草蒔絵歌書箪笥  
桃山時代(16世紀) 高台寺  
※前期展示



## 第5章 桃山期の変革 — 黄金と南蛮



重文 日月蒔絵硯箱  
桃山時代(16世紀) 仁和寺  
※後期展示

長い戦乱の時代が終わりに向かうと、豊臣秀吉の邸宅、聚楽第をはじめ、各地で天下普請が盛んになり、豪華な殿舎を飾る蒔絵の調度品が求められるようになりました。簡易的に蒔絵を施す高台寺蒔絵が流行し、秋草や桐などの大胆なデザインが好まれました。ここでは高台寺蒔絵の名品として名高い重文「秋草蒔絵歌書箪笥」などをご紹介します。



国宝 初音蒔絵貝桶  
靈仙院千代姫  
(尾張徳川家2代光友正室)所用  
江戸時代(17世紀) 徳川美術館  
※前期展示



国宝 初音蒔絵文台・硯箱  
靈仙院千代姫  
(尾張徳川家2代光友正室)所用  
江戸時代(17世紀) 徳川美術館  
※後期展示



重文 樹夫蒔絵硯箱  
江戸時代(17世紀) 伝本阿弥光悦 MOA美術館

重文 住之江蒔絵硯箱  
江戸時代(18世紀) 尾形光琳 静嘉堂文庫美術館  
画像提供:静嘉堂文庫美術館／DNPartcom  
※展示期間 4月 24日～5月 8日



赤とんぼ蒔絵箱  
松田権六 昭和44年(1969)  
京都国立近代美術館



蒔絵八角菓子器  
白山松哉  
明治44年(1911)  
MOA美術館



## 第8章 現代の蒔絵 —人間国宝

戦後、文化財保護法の制定に伴い工芸技術のうち、芸術上・歴史上価値の高い「技」を「重要無形文化財」(人間国宝)として指定しました。本章では、蒔絵で初の人間国宝として戦後の漆芸界を導いた松田権六(1896-1986)をはじめ、現在まで受け継がれる人間国宝の卓越した技をご覧いただきます。

## 第6章 江戸蒔絵の諸相 —初音の調度、琳派の美

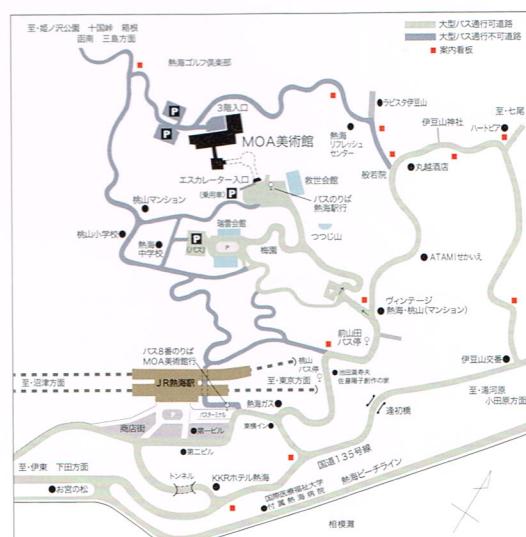
江戸時代に入ると、徳川幕府を中心に各地の大名が蒔絵を求めるようになり、蒔絵の需要は次第に市井へと広がっていきました。本章では、『源氏物語』をモチーフに豪華絢爛の蒔絵を施した国宝「初音蒔絵調度」に加え、光悦の蒔絵を模して尾形光琳が制作した重要文化財「住之江蒔絵硯箱」など琳派の蒔絵の名品を展観し、為政者から市井まで幅広く愛好された江戸蒔絵の諸相をご紹介します。

## 第7章 近代の蒔絵 —伝統様式

近代の漆工芸は、江戸時代の優れた技法を受け継ぎ発展しながらも、明治維新の変革の中で、時代に適応した新たな技術や意匠を生み出しました。ここでは、近代漆工界の第一人者と評される白山松哉(1853-1923)や、徳川将軍家の御用蒔絵師の系譜を継ぐ川之辺一朝(1831-1910)など、帝室技芸員に任命された漆工家たちを中心に近代の蒔絵作品をご紹介します。



海辺蒔絵文台・硯箱のうち硯箱  
川之辺一朝 明治時代(19世紀)  
MOA美術館



### 交通

◎JR線をご利用の場合: JR熱海駅下車→バスターミナル8番乗り場よりMOA美術館行きバスをご利用ください。(所要時間7分)

◎お車でお越しの場合: 東京方面からは、西湘バイパス、又は小田原厚木道路より真鶴道路を通り、お越しください。静岡方面からは東名沼津インター、又は新東名長泉沼津インターより伊豆縦貫自動車道→熱海道路を通り、お越しください。

**MOA美術館**  
MOA MUSEUM OF ART

〒413-8511 静岡県熱海市桃山町26-2  
tel: 0557-84-2511  
<http://www.moaart.or.jp>

